

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-81

部門名： 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名： 千葉県市川昇高等学校 岡本恵利 平成 30 年度第 2 回事務職員研修
活動名： 主タイトル (12 文字以内) 我ら「県立学校事務職員」!! 副タイトル (16 文字以内) ~学校事務としての誇りと愛を育てる~ ※どのような課題をどのような手法で解決したのか、わかりやすく伝える案件名を記入してください。	
解決すべき課題： (現状…前提として) ☆県立学校事務の採用区分は「一般行政」のいわゆるゼネラリスト型が 6 割以上で「学校事務採用」のいわゆるスペシャリスト型が少ない。 ☆千葉県でも、以前は採用枠に「県立学校事務採用」があったが、平成 4 年度採用より「一般行政」として一本化されており、現在、県立学校事務職員中、「県立学校事務採用」者は 37.7%である。 ↓ (課題) ・想定外の配置、異動による「学校事務職員」としてのモチベーションの低さ。学校文化に対するギャップ。 ・「県立学校事務職員」の離職の危機上位に「事務室内の人間関係」と「達成感の欠如・物足りなさ」 ・「県立学校事務職員」は「小中学校事務職員」に比べて裁量権が少なく、職務満足度が低い。 参考 (藤原文雄氏「マネジメント機能強化に向けた事務職員の資質・能力の向上及び事務体制に関する研究」より) ・「県立学校事務職員」としての横の繋がりが希薄で、仕事の悩みを抱え込んでしまう傾向がある。 ↓ ☆日々漠然と感じていたことだったが中央研修での講義を受け、他県の研修生と情報交換を行う中で現実のものと確信、危機感が強まった。	
目標・方針： ・事務長、事務職員ともに、「事務をつかさどる」に改正された職務規定を遂行するためにも、ゼネラリストであっても、「学校事務職員」としてのモチベーションを高め、誇りと愛着をもつことが必要。 ↓ ・若手の事務職員対象に、研修を企画・開催する。(横の繋がりを強化。困った時に聞ける人探し！) ・県内全事務長が集まる場で、臨場感のある研修報告を行い、中央研修を「リアル体験」してもらう。	
活動内容： ①若手事務職員研修を企画・開催 県内の市川と松戸の 2 地区合同で、若手事務職員 (およそ 20 代) を対象とした研修を企画・開催した。 (参加者 21 名) 日時：平成 30 年 11 月 22 日 場所：ホテルポートプラザちば 研修内容 (1) マナー & コミュニケーション研修 (120 分) ~学校の顔として職員に求められる意識と態度~ 講師：(株)パトス (2) グループ討議 (90 分) 出席者からの質問や疑問等を基に、先輩事務職員 (事務長) を交え 4 グループに分かれ討議	



②中央研修報告
全 9 コマ、一日 6 時間の講義・演習・協議で学んだことを、38P に及ぶパワーポイントの資料にまとめ、県内 169 校の事務長が集まる千葉県公立学校事務長会総会において 50 分間の研修報告を行った。

日時：令和元年 5 月 8 日 (水) 場所：ホテルポートプラザちば



活動の成果： ※それによって、どんな成果が得られましたか？

①若手事務職員同士の横のつながりを作るきっかけになった、日常業務での悩みを解決することができた、等研修を受講して大変良かった (14 名)、良かった (6 名) との回答を得た。また、このような研修を定期的を受講したい、と回答した者は 20 名に及んだ。

また、アドバイザーになった事務長からは、上司・部下の関係ではない他校の若手事務職員と話が出来、若手の気持ちを理解、ジェネレーションギャップを埋めることが出来た。との感想を得た。

さらに、今年度に入って、他の地区でも同様の研修会を開催したいとの反響があった。

(参加者の感想～アンケートから～)

- ・年代の近い職員との交流が生まれてとても有意義でした。
- ・自分の担当している業務について、他校のやり方がとても参考になった。
- ・接遇の応対練習を実際にやってみることで覚えることができた。
- ・グループ討議の時間がもっとほしかった。

こういった研修を通じて、「県立学校事務職員」として育ち、愛着、誇りを持つことにつながってほしい・・・!

②事務長達に最新の教育施策やスクールコンプライアンスの情報を伝え、「組織マネジメント」や、「事務職員の育成」について考えるきっかけを与えることが出来たのではないかと。

(参加者からいただいたコメント)

- ・(パワーポイントおかげで) 中央研修でどんな講義を受けて来たのかがとてもよく分かって興味深かった。
- ・日々の業務に追われているだけではダメで、アンテナを高くしなければ、と思った。
- ・学校に帰って、この資料を共有し、事務室の意識を高めたい。
- ・事務職員を育てるのも、守るのも事務長の仕事だと改めて感じた。

アピールポイント (アイデアや工夫)：

①地区研修は例年どの地区でも行われているが、近年、施設見学など「行って終わり」の研修が多く、研修意義が見出せずいたので、その機会を利用し、県教育委員会主催の研修にはない「学校事務職員の若手研修会」を開催したことで高評価を得た。加えて、2 地区合同で行った結果参加者がグループ討議に丁度良い人数となった。

また、研修の日程構成として、最初からグループ討議にすると活発な意見が出ないと予測し、前半を若手事務職員が真っ先に担当するにも関わらず苦手な、接遇についての研修を行い、後半にグループ討議を組んだ。結果、活発な意見交換が行われ、時間をオーバーするほどの盛り上がりを見せた。

②中央研修報告はこれまでも行われてきたが、口頭での報告のみだったので、聞く方にとっては漠然として聞き流して終わってしまっていた。そこで、今回はパワーポイントで資料を作成し、機構より提供された記録写真等をふんだんに使用することによって臨場感のある報告会に仕上げた。また、パワーポイントの資料を県事務長会の HP にアップし、自己研修等でも利用できるようにした。